

コンテナラウンドユース 構成員の取組紹介



平成 29 年 3 月
埼玉県コンテナラウンドユース推進協議会
埼 玉 県

序. 本書のねらい

コンテナラウンドユースの効果を広く示すこと 取組を紹介することで、事業者の活動に資すること 取組を共有することで、課題解決の一助とすること

埼玉県は、平成 26 年 10 月に「埼玉県コンテナラウンドユース推進協議会 (SCRU)」を設立し、コンテナラウンドユース (Container Round Use : CRU) の推進に取り組んでまいりました。

県では、物流効率化施策を推進するため、構成員から CRU の実績を報告頂き、その実態を把握、検証する「埼玉コンテナラウンドユース社会実験 (社会実験)」を平成 26 年 11 月から実施し、平成 29 年 1 月末までに 3,196 件の貴重なデータを収集しています。

社会実験により空^{から}でのコンテナ輸送を少なくすることで、コンテナ輸送距離を 32.3%、輸送時間を 39.0%、輸送コストを 21.0%低減させ、また CO₂ 排出量を総計で 240.1 トン削減できました。

これにより、CRU の取組は、企業の物流効率の向上だけでなく、港でのコンテナ搬出入の待機時間を短縮することによるドライバーの労働環境改善や温室効果ガス排出量の削減など環境への配慮に一定の効果があることを示したところです。

しかしながら、CRU の実施にあたっては多くの主体が関係し、輸出入情報の共有など、利害が異なる関係者間の調整が必要であることから、コンテナマッチングに至るまでのハードルが高く、現状では限定的な取組となっていることが実情です。

そこで、SCRU では、これから新たに取り組む事業者や、既に取り組んでいるが課題を抱えている担当者への一助とするべく、構成員の取組を取りまとめた本書を作成いたしました。

本書の作成にあたり御協力を賜りました関係者の方々をはじめ、多くの皆様の活動の一助となれば幸いです。

目次

1. コンテナラウンドユース (CRU) とは	1
2. CRU の取組の紹介	3
【荷主】	
(株) ニトリ	4
本田技研工業 (株)	6
(株) タニタ	8
東方物産 (株)	10
(株) コメリ	11
クラリオン (株)	12
藤倉ゴム工業 (株)	12
【陸運事業者】	
日本コンテナ輸送 (株)	15
日本通運 (株)	16
日本高速輸送 (株)	18
八潮運輸 (株)	19
タツミトランスポート (株)	20
ケービーエスクボタ (株)	21
日本フレートライナー (株)	22
【船会社】	
オリエントオーバーシーズコンテナライン	25
Pan Ocean コンテナ日本 (株)	26
SITC JAPAN (株)	27
南星海運ジャパン (株)	28
【その他物流関係事業者】	
濃飛倉庫運輸 (株)	30
トレードシフトジャパン (株)	32
(株) カンロジ	34
《参考》	
SCRU 標準チェックシート	36
用語の説明	38
埼玉県コンテナラウンドユース推進協議会構成員名簿	41

1. コンテナラウンドユース (CRU) とは

コンテナラウンドユースとは、輸入で使用したコンテナを、港に返却せずに輸出で継続使用する取組です。

長時間の空走行・港での待機時間を減らし、物流の効率化・ドライバーの労働環境の改善・CO₂排出量の削減が期待できます。

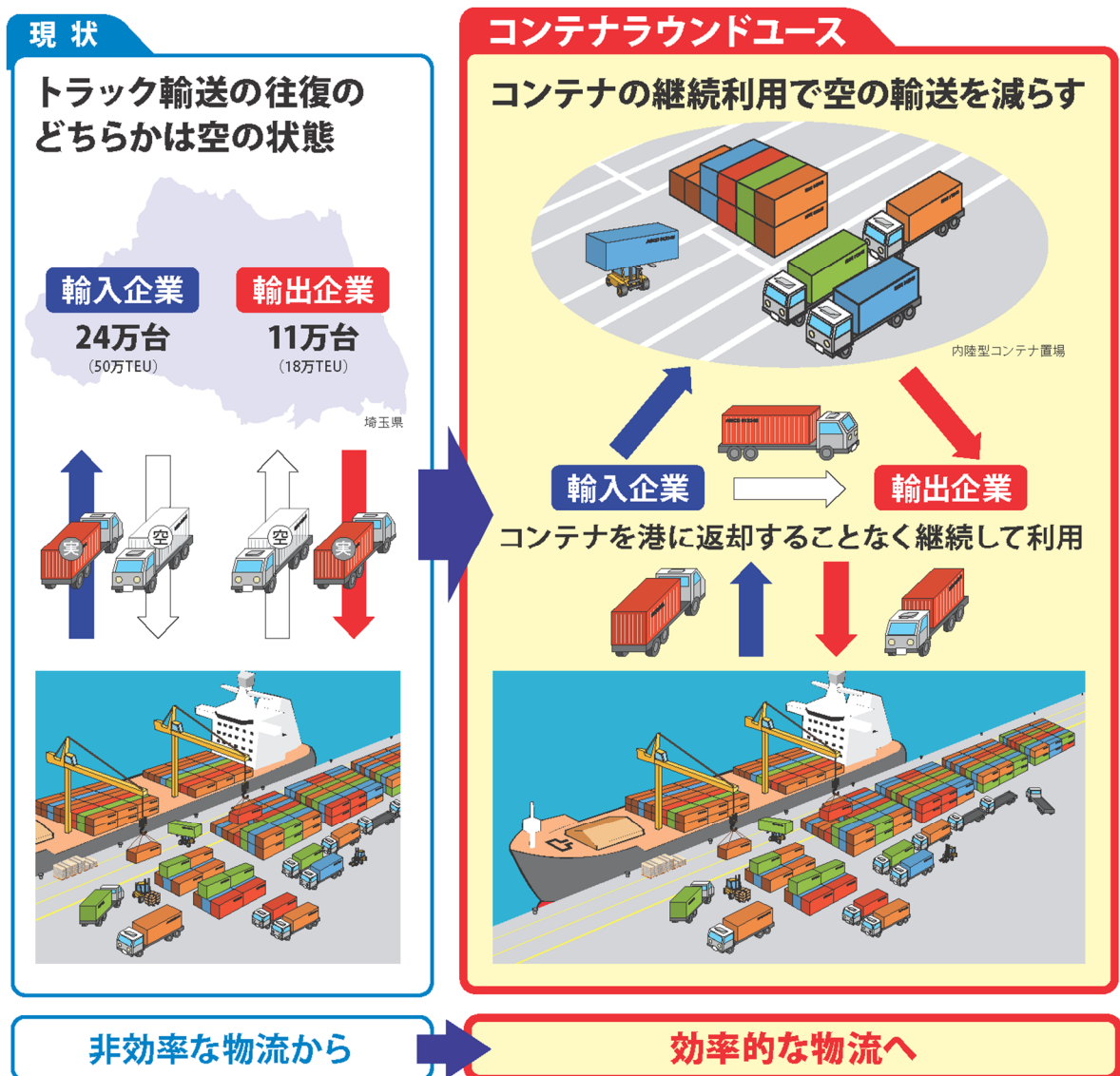


図 コンテナラウンドユース (CRU) とは

コンテナラウンドユースの効果

コンテナ輸送距離

32.3
%減

平均 71.6km 減/ラウンドユース1回

実施前 703,882km

実施後 476,454km

輸送時間

39.0
%減

平均 4.9 時間減/ラウンドユース1回

実施前 40,114 時間

実施後 24,450 時間

輸送コスト

21.0
%減

算定条件 昭和 58 年タリフ

CO₂ 排出量

240.1
トン削減

スギ 17,148 本/年 CO₂ 吸収相当

1 ラウンド当たり

- 平均 5.4 本/年 CO₂ 吸収相当

埼玉コンテナラウンドユース社会実験 | 埼玉県

平成 26 年 11 月から平成 29 年 1 月まで

報告件数 3,196 件 (1 ラウンド: 1 件)

上記効果はうち内貨転用 21 件を除いて試算

輸入コンテナを荷卸後、輸出コンテナまたは国内貨物輸送として荷積して継続的に利用したもので、輸入コンテナの目的地または輸出コンテナまたは国内貨物の出発地が埼玉県内であるコンテナラウンドユースの実績から試算

2. CRU の取組の紹介

SCRU 構成員のコンテナラウンドユースの取組について紹介します。

■ 荷主

■ 陸運事業者

■ 船会社

■ その他物流関係事業者



CRU に取り組んだ経緯

弊社では、低価格・高機能な製品を調達するため、現在、商品の 90%以上を海外から輸入しています。その輸入コンテナ本数は 20ft コンテナ換算で年間 17 万本以上にもなり、圧倒的な低価格の実現のためには、海外で生産した商品を国内に輸入する際のコスト削減が重要な課題となっています。

そうした中、SCRU に参加したことで CRU に取り組み始め、情報交流の場でパートナーを発掘し、ドライバー不足等の諸課題及び輸送費・CO₂削減を目指しています。

CRU に取り組んだ成果



多数のお取引先にご協力を頂き、2016 年度、約 3,500 コンテナで CRU を実施し、空コンテナを輸送する無駄を省くことで約 230t の CO₂ 排出量を削減することができました。

ラウンドユースコンテナ確定までの流れ

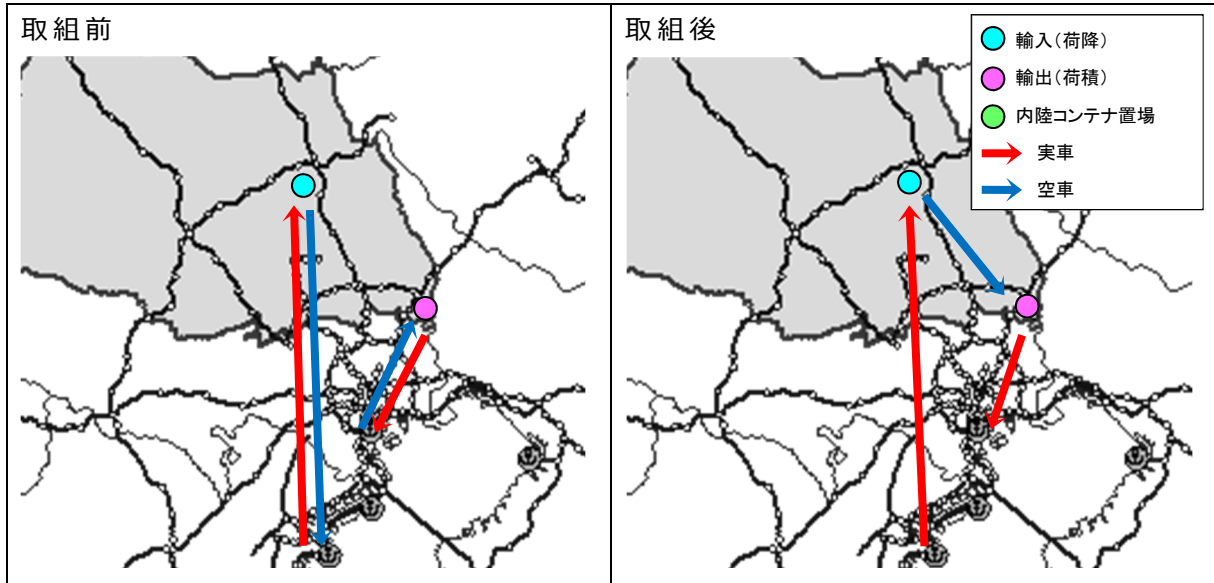
自社内に「貿易改革室」を設置し、コスト削減と安定した商品供給を実現していることが大きなポイントの 1 つです。コンテナのマッチング率を向上させるため、月・火曜日に CRU のパートナー企業から希望リストを頂き、水曜日に翌週の輸入情報を確定させるという運用を行っています。

月	火	水	木	金	土	日
①・②	③～⑦	確定				
月	火	水	木	金	土	日
			木曜日以降のスケジュールを水曜日に			
月	火	水	木	金	土	日
確定 (火曜日は納品なし)						

- ①【ニトリ】月曜日の夕方に、納品予定リスト（翌週木曜日～翌々週水曜日）を各輸出業者様へ送付する
- ②【輸出業者】月曜夕方～火曜日午前中に、ラウンドユース希望コンテナをリストで確認する
- ③【輸出業者】火曜日昼頃までに、ラウンドユース希望コンテナ（コンテナNo.・納品日時）を返信する
- ④【ニトリ】ラウンドユース希望コンテナ情報を、弊社関東 DC へ送付する
- ⑤【ニトリ】関東 DC にて、希望リストに沿ったデバンスケジュールを調整する
- ⑥【ニトリ】関東 DC から貿易改革室へラウンドユース確定リストを連絡する
- ⑦【ニトリ】ラウンドユース確定版を各輸出業者様・ドレー業者様へ報告する

CRU 実例

弊社関東 DC（埼玉県白岡市）と A 社バンニング拠点（埼玉県三郷市）とで、実施しています。



今後の取組について

現在、ニトリは、埼玉県内に 3 ヶ所（白岡市、三郷市、三芳町）の物流センターがありますが、近く幸手市にも物流センターを新設予定です。

今後ますます物量が増加する中で、コンテナラウンドユースについても、より一層拡大していく予定です。

関東圏内の物流センター（DC）



問い合わせ先 | (株)ニトリ 貿易改革室 担当：山本

TEL : 03-6741-1237

E-mail : hiroshi_yamamoto@nitro.jp

本田技研工業（株） | 輸出・輸入荷主

URL | <http://www.honda.co.jp/>

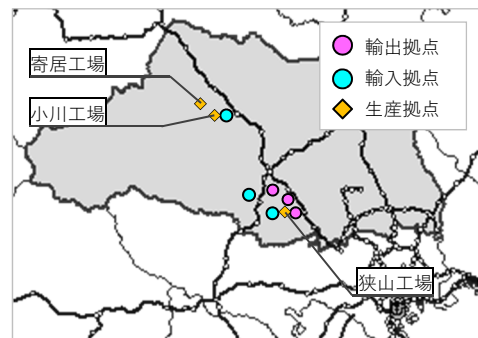
埼玉海外物流 BL の取組 - 埼玉製作所における CRU -

弊社は CRU を拡大することで、コスト削減および CO₂ 低減の両立を目指しており、埼玉製作所では 2014 年 4 月に、海外調達部品の増加に伴い輸入コンテナ本数が増加したことで、CRU が大幅に拡大できる状況となったため導入しました。

輸出入委託先様の全拠点で推進しており、自社施策によるマッチング率向上を図り、他社 CRU 展開も実施しています。

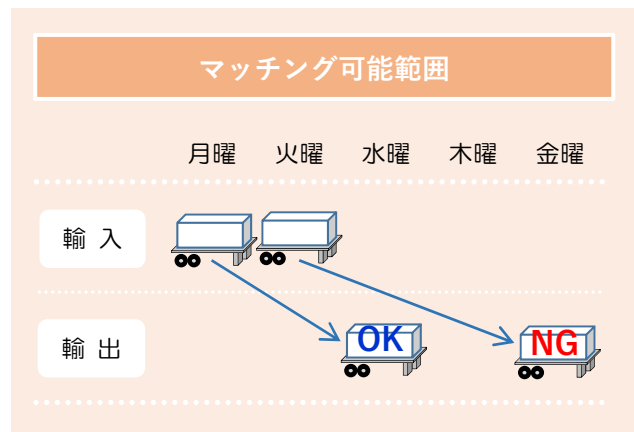
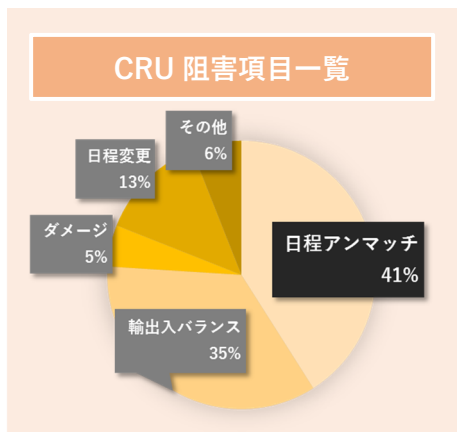
- 輸入**
- 貨物：4 輪部品 / リタナブル包装材
 - デバンニング拠点：
 - 日高市、狭山市、小川町 計 4 拠点
 - 輸入コンテナ本数：約 350 本 / 月

- 輸出**
- 貨物：4 輪部品
 - デバンニング拠点：狭山市 計 3 拠点
 - 輸入コンテナ本数：約 950 本 / 月



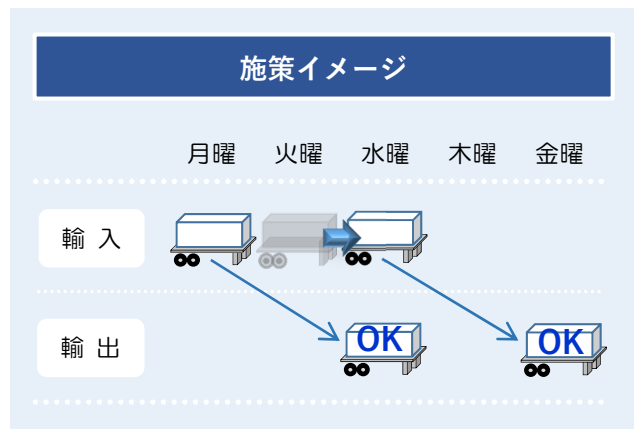
自社 CRU の課題と施策

- CRU マッチングを阻害する事象を分析し、自社内にて施策を実施



施策

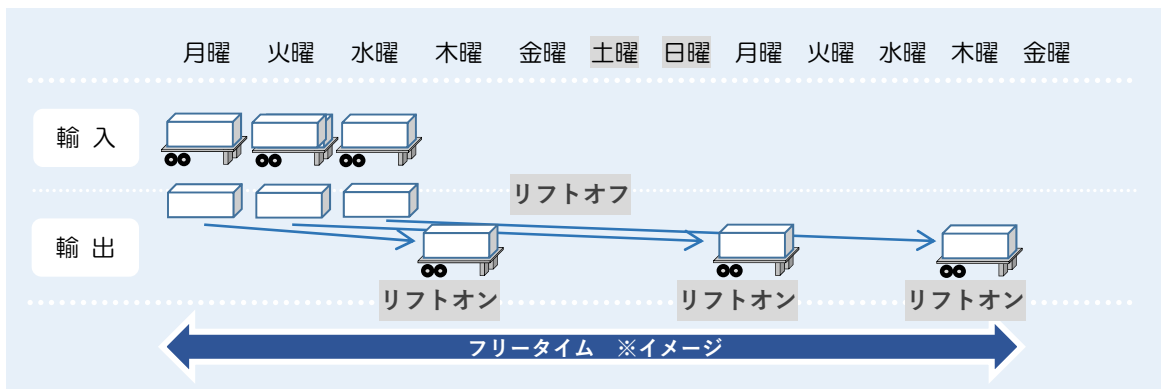
調整可能な”輸入デバンニング日程”を”輸出バンニング日程”へ合わせることで マッチング率を向上させる



お試しデポ（タツミデポ）を活用した施策

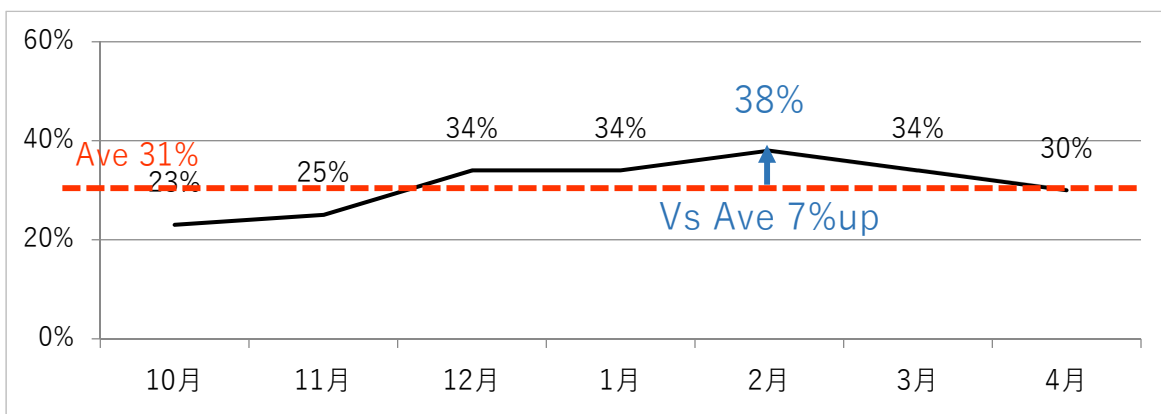
前項の自社施策だけでは、輸入日程を全数調整することは不可能であり、さらなる施策が求められます。

2016年2月に、お試しデポ（タツミデポ、埼玉県狭山市）を活用することで、各船社様ごとに契約したフリータイムを最大限活用し、輸入デバン～輸出バンニングまで最大8日間でのマッチングを、試験的に1カ月限定で自社CRUへ適用しました。



■ マッチング効果について（2016年2月 vs 7カ月マッチング率 Ave）

輸入量増によりマッチング率が低下した7カ月において比較



■ 施策あり vs 施策なし 2月単月

総輸入 538 本	施策なし	CRU 本数 162 本	マッチング率 30%
	施策あり	同 203 本 (41 本 up)	同 38% (8% up)
マッチング率向上の効果を実証			

他社 CRU 拡大における課題

他社との CRU を実施するには、輸出日程のアンマッチ・コンテナダメージ・リフト作業費・輸送業者様の仕事量確保が課題であり、船社様契約の内陸コンテナ保管基地を中心とした CRU が必要と考えています。

(株) タニタ | (輸出・輸入荷主)

CRU に取り組んだ経緯

今から 20 年程前に弊社中国工場（広東省東莞市）から輸入が始まり、当初は東京港からトレーラーで新潟まで運んでおりましたが、輸送コストが高額であることや CO₂ の排出量が多くなるのが気になっており、何か解決策は無いかと試行錯誤をしていました。

丁度タイミング良く OOCL が深圳港発日本向けの本船を配船し始めたところであり、当時 OOCL 弊社営業担当であった ESCOT 藤本氏とこの問題について話す機会があり、議論を重ねた結果、“日本国内でインランドデポを有効活用して、空コンテナを走らせず往復実入りにすれば、輸送コストも CO₂ も大幅な削減になるのではないか”との結論に至りました。

当時の上司に内容を詳細に説明し、“人のやらないことをするのがタニタだから失敗しても良いからチャレンジしてみたら”との了解を頂き、直ぐに実行し、世の中に先駆けて CRU を始めることとなり現在に至っています。

ESCOT 藤本氏、さらにメンバーの皆様が色々な場所で時間を掛け、地道に荷主、運送会社などに個別に働き掛けしてきたことや、セミナー等を開催することで、運送業界での認知度が上がり、ドライバー不足などの要因も重なった結果、色々な地区で CRU が普及され始めたのだと思っております。

CRU に取り組んだ成果

- 毎日、海上コンテナを新潟や秋田まで陸送、鉄道輸送をすることで、輸送コストの削減と大幅な CO₂ やリードタイムの削減が図られています。
- 陸送、鉄道輸送を有効的に活用し、状況に応じた輸送方法を選択することで、物流の効率化が図られています。

取組のポイント

- ① 荷主が中心となり CRU を推進していく必要があります。
(輸送コストは荷主負担であるため)
- ② 埼玉県様のような CRU 推進協議会や荷主間での意見交換会が必要です。
- ③ 荷主が海上運賃ビットに CRU を必ず船会社に入れるようにすべきです。
- ④ 荷主物流担当者や船会社への CRU に対する啓蒙活動が必要です。
- ⑤ 輸入荷主はクリーンコンテナを供給することが重要です。
- ⑥ 船会社、運送業者、通関業者、複合輸送業者、其々の特性を生かして一つのチームとして、荷主がコントロールして行くことで CRU が上手く回ると考えます。

今後の取組について

- ✓ 関東域内（埼玉県、栃木県、茨城県）のインランドデポの有効活用を開始。
- ✓ 現在行っている海上コンテナ内貨転用の拡大を図る。
- ✓ 鉄道を利用した新たな輸送モードの実施。
- ✓ GLP 社等の倉庫デベロッパーとの情報交換による CRU の新たな取組への模索。

CRU 活用によるタニタの物流

陸送や鉄道輸送を状況に応じて、効果的に組み合わせ、多様な輸送モードにより CRU を実施することで環境にやさしい効率的な物流を実現しています。



問い合わせ先 | (株) タニタ 国際物流管理室 担当：横山

TEL : 03-5918-6841

東方物産（株） | 輸出荷主

URL | <http://www.touhou-bussan.com/>

CRU に取り組んだ経緯

弊社は再生原料を扱う商社であり、主に古紙を中国等へ輸出しています。現在は、京浜港から約 500 本／月の 40ft コンテナを輸出していますが、古紙という商材の性質上、他の貨物に比べてドレージ業者が確保しにくい問題があります。

関連会社で物流業も営んでおり、以前から CRU に取り組んでいましたが、SCRU に参加し多くの企業と出会ったことで、この取組を大きく拡大しています。

CRU に取り組んだ成果

2016 年
CRU 実施本数 約 **2,000** 本

輸出ベースで 50% 超のマッチング率を目標としています。

取組のポイント

関連会社である東方国際物流(株)が物流業を営んでおり、コンテナマッチングの際には柔軟な対応が可能です。

今後の取組について

取り扱う輸出荷物のバンニング先が関東一円に 100 箇所近くありますので、どの地域の輸入者様ともマッチングが可能です。

輸出入のスケジュールの同期が必要となる面でも有利に働き、高いマッチング率が実現できており、豊富なマッチング実績があります。

弊社は、CRU にご興味のある輸入荷主様や物流事業者様と提携して、さらにラウンドユースを拡大して参りますのでぜひ御相談ください。

ラウンドユースマッチングまでの流れ

1. 輸入者が起用している船社が、弊社輸出と一致しているか確認する。
2. デバンニングとバンニングの予定が同じ日取りであるかを電話、メール等で確認し合う。予定が合う分をラウンドユース対象とする。
3. ラウンドユース予定のコンテナを船社に連絡して実際に使用可能か確認する。
4. 可能であればラウンドユースさせる。

埼玉県周辺の主なバンニング可能先



問い合わせ先 | 東方物産（株）事業推進課

TEL : 03-5833-8236

CRU に取り組んだ経緯

コスト削減の一環としてラウンドユースの他社事例を情報収集していた際に、マッチング先と知り合う機会を持ち、打合せを進めて実施に至りました。

CRU に取り組んだ成果

農機具メーカーとのラウンドユースを開始したことを契機として、北関東一帯のリサイクル貨物とのラウンドユースも可能となりました。

ラウンドユースの仕組みを取り入れる事により、マッチング出来た場合は勿論の事、出来なかった場合でもドレージ費用削減効果を生む事が出来ました。

取組のポイント

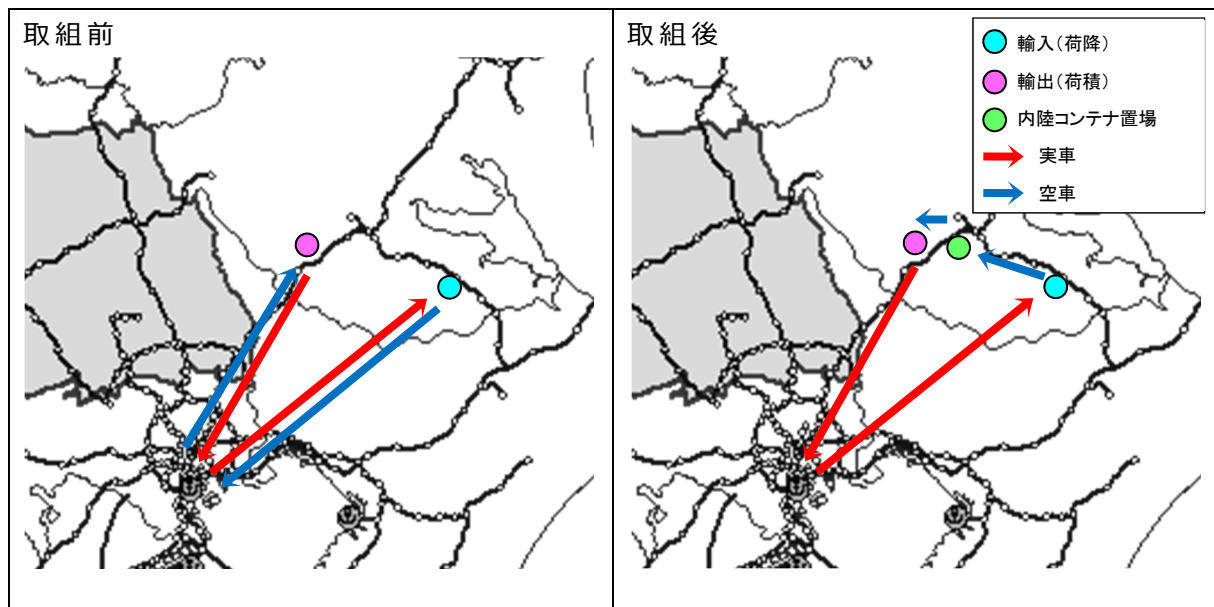
ラウンドユースを組立てるコーディネーターと、実施する通関業者及び配送業者間との協力が不可欠です。

今後の取組について

埼玉県内のマッチング先を対象とする群馬県高崎市と、三重県四日市市にある弊社物流センターでラウンドユースを水平展開することを検討しております。

CRU 実例

弊社輸入拠点である茨城流通センター（茨城県稲敷市）と A 社（茨城県つくば市）とで、内陸コンテナ置場を活用して実施しています。



クラリオン（株） | 輸出・輸入荷主

URL | <http://www.clarion.com/jp/ja/top.html>

業種区分

車載音響機器メーカー

CRU の取組

弊社では、茨城県古河市にある(株)日立物流バンテックフォワーディングのコンテナ蔵置場を利用した自社と他社の間でのコンテナラウンドマッチングを実施しております。

仕向先は主に香港及びタイで、船社は TS-Line を起用しております。

今後も更なるマッチングの実現に向け推進してまいります。

問い合わせ先

クラリオン株式会社 TSCM 推進部 TEL:048-601-3615

藤倉ゴム工業（株） | 輸出・輸入荷主

URL | <http://www.fujikurarubber.com/>

業種区分

工業用ゴム製品の製造販売

CRU の取組

弊社では、海外工場で生産した製品の輸入と、その生産に使用する材料等を輸出しております。自動車部品から印刷部材、ゴルフシャフトなど7つの事業部門を有する多種多様なメーカーです。

昨今の環境への配慮から、省エネ(CO₂排出量削減)効果を考え、ラウンドユースを実施する事としました。

今後は輸出入のスケジュールを調整し、実施する本数を増やしていく事で、さらなる物流の合理化を図り、港湾地区の渋滞緩和やドライバー不足対策に寄与したいと考えています。

問い合わせ先

藤倉ゴム工業株式会社 生産管理グループ 松本憲和 TEL : 0480-72-6192

荷主

陸運事業者

船会社

その他物流関係事業者